

## 運轉免許證更新

赤谷慶子

今年是我<sup>わが</sup>運轉免許證更新の時期に當たる。七十歳を過ぎて初めての更新なり。本來若者の交通事故件數は高齢者のそれを遙かに上回るといへども、様々なる事件起こり七十歳を過ぐれば更新手續きの難易度を上げ、かつは「高齢者講習」といふを受くる事必須となりたり。さほど深刻ならんとは思はざりしに、この行程難儀なる事判明せり。所謂ドライビングスクールなる所にて二時間の講習を受け、その證明書を持ちて初めて免許更新の行程に入るなり。この高齢者講習の豫約を取る事いと難儀にて、三箇月を待つ必要あり。通常新しく免許證を取る者はドライビングスクールにて何十萬もの費用を拂ひて運轉技術を取得すれば、學校側には大いなる利益あり。しかれども、高齢者の二時間講習は僅々五千百圓にて、儲けにならぬ講座を學校は冷遇す。五月初旬に漸<sup>やうや</sup>う豫約入りたれども、コロナ騒動の下、高齢者講習は全て中止となりたり。その際、學校側より免許の延長を近隣の警察署へ赴き申請すべしとの進言を得たり。三か月の延長申請成り、十月までに更新をすれば差し支へなしとの由。警察廳の電網を常に確認したれば、六月より高齢者講習再開すとの由。早速ドライビングスクールに電話を入れ、五月初旬に豫約入りたりども、コロナ騒動にて中止になりしなどの理を説けば、八月上旬に豫約を受け入れんとは申しけり。

漸う八月のその日到来し、ここともと二子玉川のドライビングスクールに赴けり。高齢者講習には全六名参加すれど、女性は我一人。一時間の講習終はり、次は實車になりき。通常は教官と三名同乗するなるが、コロナにて人との間に距離を置く事必要にて、教官と一人のみ同乗、それも通常三十分のところ、五分なりき。わが愛車は六氣筒の排氣量の大きな車なり。教習所の車小型車にて、車幅やハンドルの切り具合など色々異なりたりて、狭き道路を直角に曲がる、バックにて狭き場所に入るなど、細かい技術を要求せられたれど、毎日運轉したれば、よく克復するを得たり。この講習、實車を要求せらるるため、今後は高齢のペーパードライバーは免許更新するは難くなると思ひき。全六名「終了證明書」を受け取り、帰路につく。

翌週、田園調布警察署へ赴き、「高齢者講習の終了證明書」を提示したれば、二十分にて免許更新叶ひ、安堵したりき。後期高齢者になりたれば、この行程に「認知症の試験」を受くるの段加はる。いよいよ、七十五歳以上の後期高齢者は運轉免許を返上するを暗黙の了解にて要求せられむ。十六歳より運轉したれば、易々と免許返上する事、ここともとは良しとせず。米壽までは諦めじ。

(令和二年八月二十六日受附)